

# 牛肉

## ◆ 飼養動向

### 6年2月現在の肉用牛の飼養頭数、前年比0.6%減

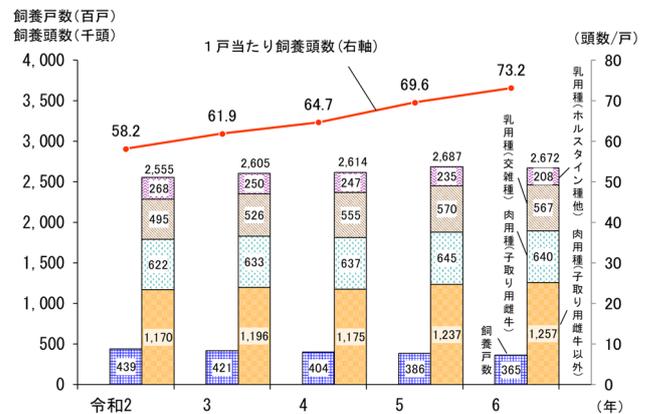
肉用牛の飼養戸数は、小規模層を中心に減少傾向が続いており、令和6年（2月1日現在、以下同じ）は、3万6500戸（前年比5.4%減）と前年からやや減少した（図1）。

総飼養頭数は、近年増加傾向にあったが、267万2000頭（同0.6%減）と前年からわずかに減少した。肉用種と乳用種をそれぞれ見ると、肉用種は189万7000頭（同0.8%増）と前年からわずかに増加した一方、乳用種<sup>（注）</sup>は77万4900頭（同3.7%減）と前年からやや減少した。乳用種のうち交雑種は、56万7200頭（同0.4%減）とわずかに、ホルスタイン種他は、20万7700頭（同11.5%減）とかなり大きく、いずれも前年から減少した。

この結果、1戸当たりの飼養頭数は、73.2頭（同5.2%増）と前年からやや増加し、同頭数の増加傾向は継続している。

（注）「畜産統計」では、乳用種の肉用牛とは、ホルスタイン種、ジャージー種などの乳用種の牛のうち、肉用を目的に飼養している牛で、乳用種と肉用種の交雑種を含むと定義されている。

図1 肉用牛の飼養戸数および飼養頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」  
注1：各年2月1日現在。  
注2：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

## ◆ 生産

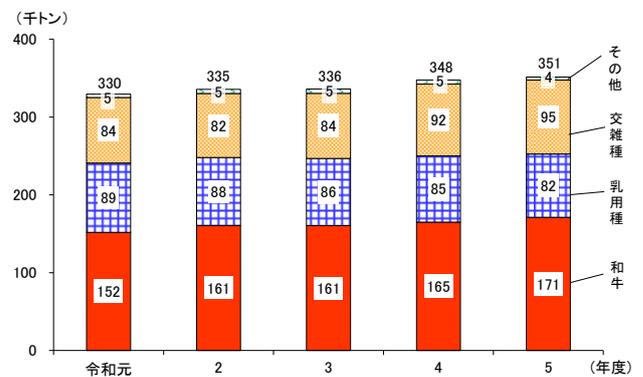
### 5年度の生産量、前年度比1.1%増

牛肉生産量は、畜産クラスター事業の取り組みなどにより、平成29年度以降、和牛を中心におおむね増加傾向で推移している。

令和5年度は、和牛は17万1011トン（前年度比3.7%増）、交雑種は9万5025トン（同3.0%増）と、ともに前年度をやや上回った一方、乳用種は8万1542トン（同4.2%減）とやや下回った（図2）。

この結果、全体では35万1397トン（同1.1%増）と前年度からわずかに増加した。

図2 牛肉の生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」  
注1：部分肉ベース。  
注2：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

◆ 輸入

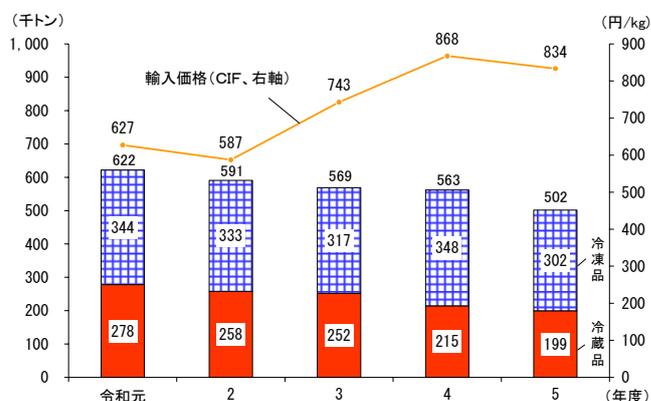
5年度の輸入量、前年度比10.8%減

牛肉輸入量は、近年、増加傾向で推移していたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響による外食需要の低迷などから減少傾向にあり、5年度は、物価の上昇に伴う消費者の生活防衛意識の高まりなどによる需要低迷の他、円安や現地相場高の影響などにより、50万1898トン(前年度比10.8%減)と前年度をかなりの程度下回った(図3)。このうち、冷蔵品は19万9476トン(同7.0%減)とかなりの程度、冷凍品は30万1988トン(同13.1%減)とかなり大きく、いずれも前年度を下回った。

輸入価格(CIF)は、1キログラム当たり834円(同3.9%安)と前年度をやや下回った。

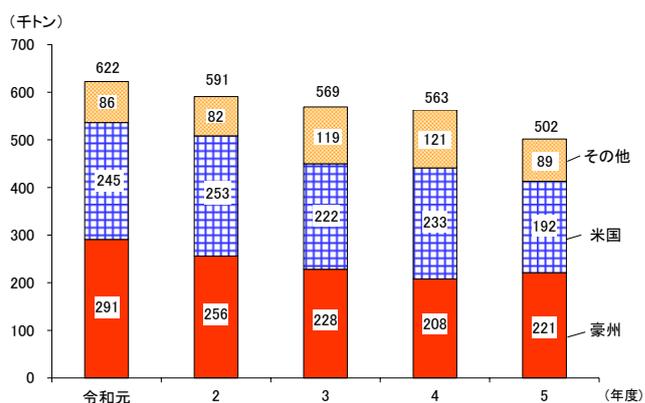
輸入先別には、干ばつ後の牛群再構築による生産量減少とそれに伴う現地相場の上昇などにより米国産が19万1802トン(同17.7%減)と前年度を大幅に下回った一方、生産量が堅調に推移した豪州産が22万1186トン(同6.3%増)と前年度をかなりの程度上回った(図4)。この結果、シェアは、豪州が全体の44%、米国が同38%を占めた。

図3 牛肉の冷蔵品・冷凍品別輸入量および輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」  
 注1：部分肉ベース。  
 注2：合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図4 牛肉の輸入先別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」  
 注1：部分肉ベース。  
 注2：煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。  
 注3：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

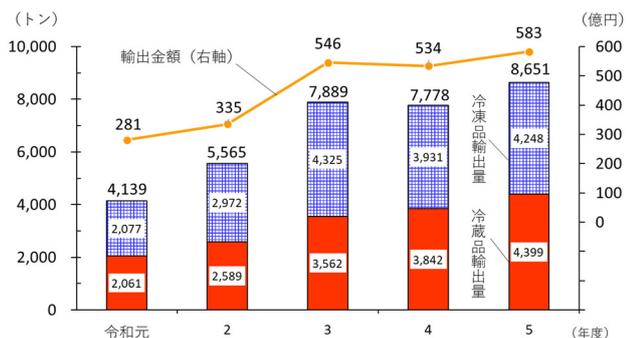
◆ 輸出

5年度の輸出量、前年度比11.2%増

牛肉輸出量は、近年、販路の開拓や販売促進の効果などにより増加傾向で推移しており、令和5年度は、特に台湾や香港での外食需要の回復により、8651トン(前年度比11.2%増)とかなり大きく、輸出金額も583億円(同9.2%増)とかなりの程度、いずれも前年度を上回った(図5)。

輸出量の内訳を見ると、冷蔵品は4399トン(同14.5%増)とかなり大きく、冷凍品は4248トン(同8.1%増)とかなりの程度、いずれも前年度を上回った。冷蔵品と冷凍品の割合は、前年度に続き5年度もほぼ同程度となった。

図5 牛肉の輸出量および輸出金額の推移



資料：財務省「貿易統計」  
 注1：部分肉ベース。  
 注2：合計は、枝肉・半丸枝肉、骨付きを含む。

## ◆消費

5年度の推定出回り量は前年度比1.2%減、家計消費は同4.4%減

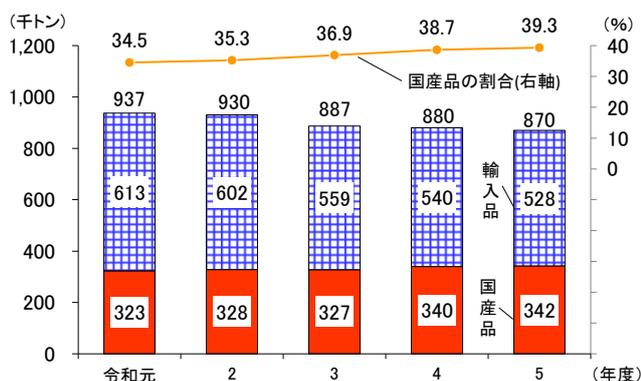
### 推定出回り量

牛肉の推定出回り量は、COVID-19発生後は、その影響によるインバウンド需要や外食需要の減少などにより減少傾向で推移していた。令和5年度は、物価の上昇による消費者の生活防衛意識の高まりや輸入量の減少などにより、87万32トン(前年度比1.2%減)と前年度をわずかに下回った(図6)。

出回り量の内訳を見ると、国産品は34万2235トン(同0.5%増)と前年度をわずかに上回った一方、輸入品は52万7797トン(同2.3%減)と前年度をわずかに下回った。

なお、合計に占める国産品の割合は39.3%(同0.6ポイント増)と4年連続で前年度を上回った。

図6 牛肉の推定出回り量の推移

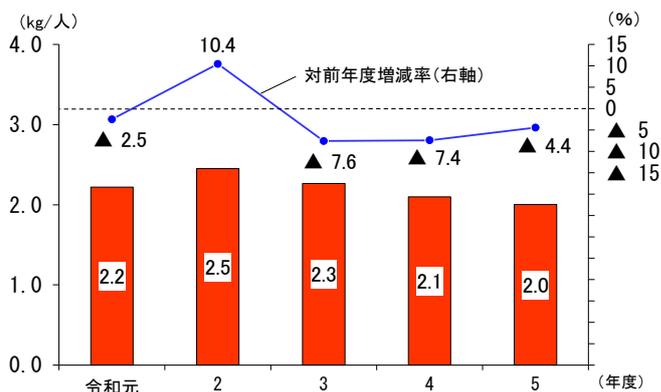


資料：農畜産業振興機構推計  
 注1：部分肉ベース。  
 注2：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

### 家計消費

牛肉消費の約3割を占める家計消費について、令和5年度は、物価の上昇による消費者の生活防衛意識の高まりなどにより、年間1人当たり2.0キログラム(前年度比4.4%減)と、前年度をやや下回った(図7)。

図7 牛肉の家計消費量(全国1人当たり)の推移



資料：総務省「家計調査報告」

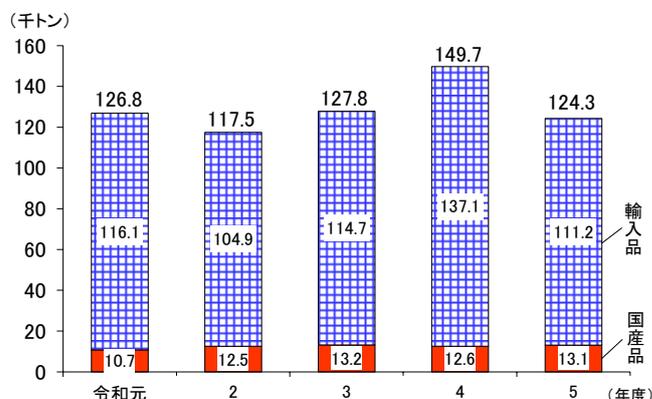
◆在庫

5年度の推定期末在庫量、前年度比17.0%減

牛肉の推定期末在庫量は、約9割を輸入品が占めており、輸入量の影響を受け、増減を繰り返しながら推移している。

令和5年度は、12万4337トン（前年度比17.0%減）と前年度を大幅に下回った。このうち、国産品は物価上昇に伴う需要低迷などを背景に1万3108トン（同4.1%増）と前年度をやや上回った一方で、輸入品は、輸入量の減少などにより、11万1229トン（同18.9%減）と前年度を大幅に下回った（図8）。

図8 牛肉の推定期末在庫量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ  
注1：部分肉ベース  
注2：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

◆枝肉卸売価格

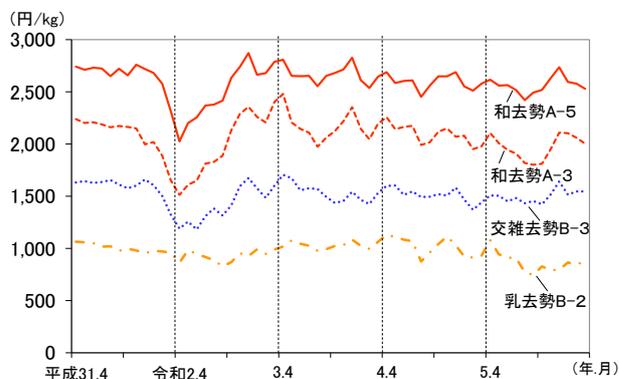
5年度の枝肉卸売価格、和牛、交雑種、乳用種のすべてで下落

和牛（東京・去勢A-5、A-3）の枝肉卸売価格は、令和5年度は、物価の上昇による消費者の生活防衛意識の高まりなどの影響により需要が低迷した。年度平均では、A-5が1キログラム当たり2563円（前年度比1.2%安）とわずかに、A-3が同1968円（同5.9%安）とやや、いずれも前年度を下回った（図9）。

交雑種（東京・去勢B-3）の枝肉卸売価格は、近年、適度な脂肪交雑などが消費者に広く受け入れられるなど引き合いが高まっており、堅調に推移していたが、5年度は、年度平均では、1キログラム当たり1501円（同0.7%安）と前年度をわずかに下回った。

乳用種（東京・去勢B-2）の枝肉卸売価格は、近年、国産牛の中でも比較的安価で赤身が多い牛肉への底堅い需要がある一方、生産量が減少傾向となっていることから堅調に推移していたが、5年度は、年度を通じて前年度を下回り、年度平均では、1キログラム当たり864円（同14.9%安）と前年度をかなり大きく下回った。

図9 牛肉の卸売価格（東京・品種・規格別）の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」  
注：消費税を含む。

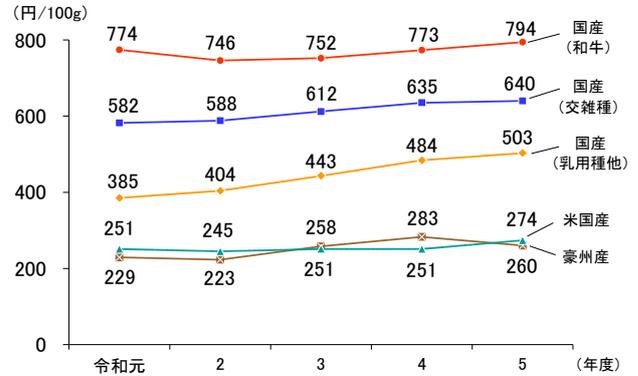
## ◆小売価格

### 5年度の小売価格、和牛、交雑種、乳用種のすべてで上昇

牛肉の小売価格は、品種や部位によって動きは異なるが、おおむね横ばいで推移している。令和5年度は、物価の上昇や為替、現地相場高などを背景に、国産品、米国産で価格が上昇した。

5年度の小売価格（ばら）は、和牛は100グラム当たり794円（前年度比2.7%高）、国産牛（交雑種）は同640円（同0.8%高）、国産牛（乳用種他）は同503円（同3.9%高）、米国産は同274円（同9.2%高）、豪州産は同260円（同8.1%安）となった（図10）。

図10 牛肉の小売価格（ばら）の推移



資料：農畜産業振興機構調べ  
注：消費税を含む。

## ◆肉用子牛

### 5年度の肉用子牛価格、黒毛和種は前年度比13.6%安

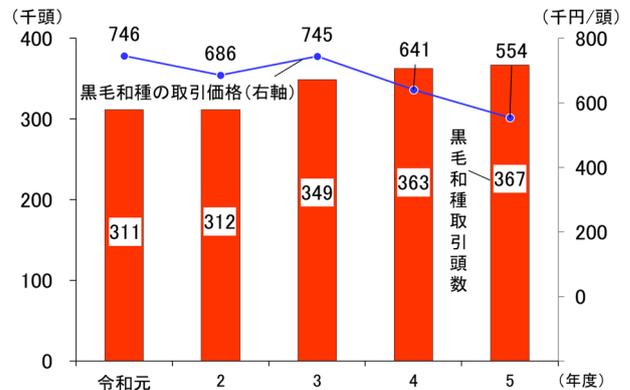
#### 黒毛和種

家畜市場における黒毛和種の子牛取引頭数は、令和5年度は、36万7112頭（前年度比1.2%増）と前年度をわずかに上回った（図11）。

黒毛和種の子牛取引価格は、平成28年度をピークに低下する中、令和2年2月以降、COVID-19の影響による枝肉価格の低下に伴いさらに低下した。その後、枝肉価格の上昇などにより回復したが、4年5月に急落し、一時回復傾向が見られたものの、下落傾向が継続している。

この結果、5年度は、1頭当たり55万4千円（同13.6%安）と前年度をかなり大きく下回った。

図11 黒毛和種の取引頭数と市場取引価格の推移



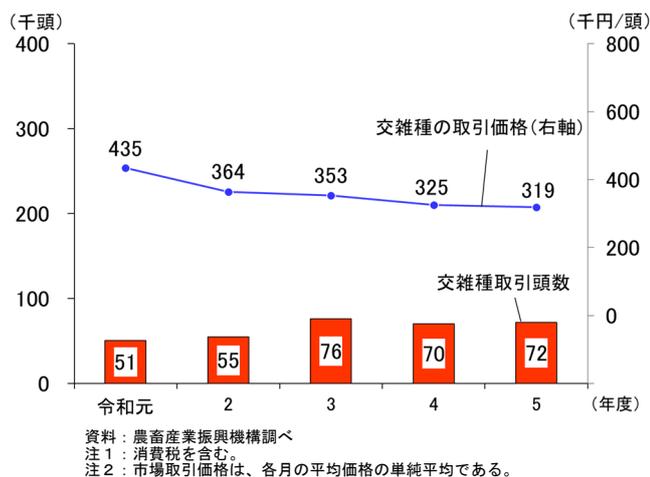
資料：農畜産業振興機構調べ  
注1：消費税を含む。  
注2：市場取引価格は、各月の平均価格の単純平均である。

## 交雑種

家畜市場における交雑種の子牛取引頭数は、令和5年度は、7万2047頭（前年度比2.6%増）と前年度をわずかに上回った（図12）。

交雑種の子牛取引価格は、5年度は、1頭当たり31万9千円（同1.9%安）と前年度をわずかに下回った。

図12 交雑種の取引頭数と市場取引価格の推移



## ホルスタイン種

家畜市場におけるホルスタイン種の子牛取引頭数は、令和5年度は、8643頭（前年度比27.6%減）と前年度を大幅に下回った（図13）。

ホルスタイン種の子牛取引価格は、近年、取引頭数の減少などを背景に堅調に推移してきたが、4年度に下落に転じ、5年度も1頭当たり17万7千円（同10.2%高）と前年度をかなりの程度上回ったものの低水準となった。

図13 ホルスタイン種の取引頭数と市場取引価格の推移

